

環境報告書

Environmental Report

2015



Communication for Health

株式会社 エスアールエル

CONTENTS

編集方針 1

企業理念 2

- 企業理念
- 会社概要
- エスアールエルグループが受託する臨床検体検査

環境方針 3

- エスアールエルグループ環境保全推進宣言
- エスアールエル環境方針

社長メッセージ 4

環境影響 5

- エスアールエルの事業活動と環境への影響

2014年度 環境への取り組み 6

- 環境教育の実施
- 環境情報の共有化
- エネルギー使用量の削減
- 全社 CO₂ 排出量
- 廃棄物の削減
- 行政への報告
- 環境法規制・条例への対応
- ISO14001内部監査
- ISO14001外部審査
- 2015年度の活動について

TOPICS 2014年度 EMS活動 11

- 外灯のLED化（八王子ラボラトリー）
- ISO14001認証の新規サイト（中央ラボラトリー）
- エフエム石川 ハローファイブエコキャップ運動に参加（金沢ラボラトリー）

コラム 12

- エスアールエルのちょこっとエコ
- お隣企業のエコだけの話

ISO14001 認証事業所MAP 13

編集後記 14

編集方針

皆さまにエスアールエルの環境管理活動を知っていただくため2011年より「環境報告書」を発行しています。本報告書は、エスアールエルの環境影響や環境への取り組み、EMSの活動について、可能なかぎりデータを開示し「読みやすく」「わかりやすく」を心がけて作成しております。なお、できるだけ多くの皆さまとコミュニケーションを図っていくため、ホームページでの公開と冊子の発行をしています。

「環境報告書」は、以下の内容を中心にご報告させていただきます。

- エスアールエルの事業活動による環境影響
- エスアールエルの環境への取り組み
- エスアールエルのEMS活動

「環境報告書2015」は、以下の内容に準拠し、作成しています。

準拠するガイドライン：本報告書は、「環境報告書ガイドライン（2007年版）」（環境省発行）に準拠しています。

報告対象期間：2014年度（2014年4月1日～2015年3月31日）

対象組織の範囲：検査ラボラトリーおよび営業拠点を含む全事業所の環境関連データを収集し、掲載しています。

企業理念

『健康で豊かな社会づくりに貢献する』

エスアールエルグループの求める5つの価値

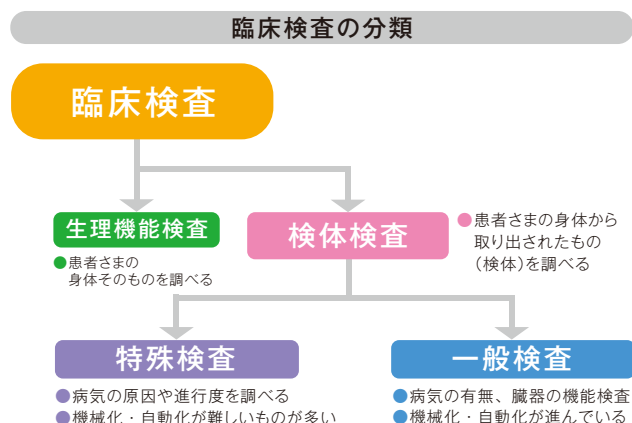
- 〔顧客本位〕 私たちは、常にお客さまの視点を重視したサービスを開発し、提供します。
- 〔品質主義〕 私たちは、あらゆる活動において、限りなく品質の向上を追求します。
- 〔情報重視〕 私たちは、さまざまな情報や情報システムを活用することで、新しい価値を生み出します。
- 〔標準志向〕 私たちは、健康を願うすべての人々に、標準となるような優れたサービスを開発し提供します。
- 〔個の尊重〕 私たちは、お客さま、従業員、一人ひとりを尊重し、個々の可能性を信じて活動します。

会社概要

社名	株式会社エスアールエル
設立	1970年（昭和45年）6月16日
本社	〒163-0409 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号 TEL:03-6279-0900（大代表）
代表者名	代表取締役社長 小川 真史
資本金	11,027 百万円（2015 年 3 月 31 日現在）
事業内容	受託臨床検査事業、感染防止商品販売
事業所	八王子ラボラトリー等の主要ラボラトリーおよび営業拠点
従業員数	2,256 名（2015 年 3 月 31 日現在）

エスアールエルグループが受託する臨床検体検査

臨床検査とは、診療を目的に患者さまの身体をさまざまな方法で病気の有無等を調べる検査です。臨床検査には、生理機能検査と検体検査があり、エスアールエルグループは、検体検査全般のアウトソーシングを承っており、なかでも特殊検査に強みをもっております。



環境方針

エスアールエルグループ環境保全推進宣言

エスアールエルグループは、地域の環境保全はもとより、広く地球環境の保全が人類ならびに地球上の生物にとって重要な課題であることを認識します。

また、環境負荷の少ない持続可能な社会システムづくりが経営において重要な課題であることを認識して、環境に配慮した事業活動を推進します。

事業に関わる省エネ・省資源・廃棄物削減の推進を通して、より良い地球環境の実現に向けた活動に取り組んでいきます。

エスアールエル環境方針

エスアールエルの環境活動の指針である環境方針は、2011年にISO14001の全社認証取得を機に、内容を明快・簡潔なものに刷新いたしました。

エスアールエルは、あらたな環境方針のもと、省エネ・省資源活動の目標に向け挑戦しております。

環境配慮

私たちは、環境に配慮した事業活動を目指し、人と環境に優しい検査サービスや製品を社会に提供いたします。

省エネ・省資源

私たちは、あらゆる活動において、省エネ、省資源行動をおこない、限りある資源を有効に活用します。

汚染の予防

私たちは、化学物質の適正管理、廃棄物の適正分別・リサイクルを推進し、汚染の予防に努めます。

法規制遵守

私たちは、適用を受ける環境に関する法規制・条例・地域協定など、要求事項を明確にし、遵守します。

EMSの改善・向上

私たちは、環境活動の目的・目標を定め、定期的に見直し、環境活動の継続的な改善を図ります。

社長メッセージ

企業のあるべき姿として、
環境保全活動に積極的に取り組むことで
社会的責任を果たしてまいります。

エスアールエルは、「健康で豊かな社会づくりに貢献する」という企業理念のもと、
受託臨床検査事業を中心に日々活動してまいりました。

昨今の地球環境問題は、地球温暖化をはじめ異常気象や自然災害も多発しており、
環境問題への取り組みが企業経営においても重要な課題になってきていることは、
皆さまもご承知のことと存じます。

エスアールエルは、いち早く全社に環境マネジメントシステムを導入し、環境に
配慮した事業活動の推進に努めてまいりました。

エスアールエルの環境活動は、2000 年に臨床検査センターでは初の ISO14001 の
認証取得に始まり、2010 年に認証範囲を全社に拡大、2011 年には活動の指針で
ある「環境方針」を刷新し、現在に至っております。

環境に配慮した事業活動は、企業のあるべき姿として当然取り組まなければならない
課題と考え実行しております。また、環境活動の継続により、社員の意識が向上し、
企業文化のひとつとして根付いてきたことを実感しております。

今後もエスアールエルは、環境に配慮した企業活動に取り組み、先を見据えた活動
により持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

本報告書が、私たちの取り組みをご理解いただけるための一助となりましたら幸甚です。

代表取締役社長

小川 真史



環境影響

エスアールエルの 事業活動と環境への影響

エスアールエルの事業活動を通じ、全事業所の環境影響を把握し、環境保全に配慮した活動を展開しています。インプット、アウトプットの環境影響に対し、省エネルギー活動、廃棄物の削減、紙のリサイクルを推進することで、環境負荷の低減を目指してまいります。

●エスアールエル全社 2014 年度 環境影響データ

IN PUT

各種エネルギー・消耗品

電気使用量	32,473 千 kWh	重油使用量	18 kL
都市ガス使用量	992 千 m ³	上水道使用量	178 千 m ³
LPG（プロパンガス）使用量	1,053 kg	試薬の使用	
ガソリン使用量	1,821 kL	検体の使用	
灯油使用量	96 kL	検査消耗品の使用	
軽油使用量	36 kL	事務消耗品の使用	

事業活動の流れ

【検体の集荷】



お客様の医療施設から検体をお預かりします。

【検体の仕分】



各ラボラトリーにて検体を検査単位に仕分けします。

【検査】



各ラボラトリーにて検体を検査します。

【検査結果の報告】



検査結果をお届けします。

OUT PUT

CO₂ 排出量 (各種エネルギーからの排出)・廃棄物量

CO ₂ 排出量	24,446 t-CO ₂	一般廃棄物	439 t
排水量	171 千 m ³	産業廃棄物	1,036 t
紙リサイクル	522 t	特別管理産業廃棄物	744 t

2014 年度 環境への取り組み

環境教育の実施

全構成員には、「環境方針」をはじめ、EMS活動の取り組み意義、環境法規制など、環境の幅広い教育を毎年5月に新たな内容で実施しています。2014年度は、EMSシステム文書の説明や省エネルギー法、東京都地球温暖化対策も含め、教育を実施しました。

環境情報の共有化

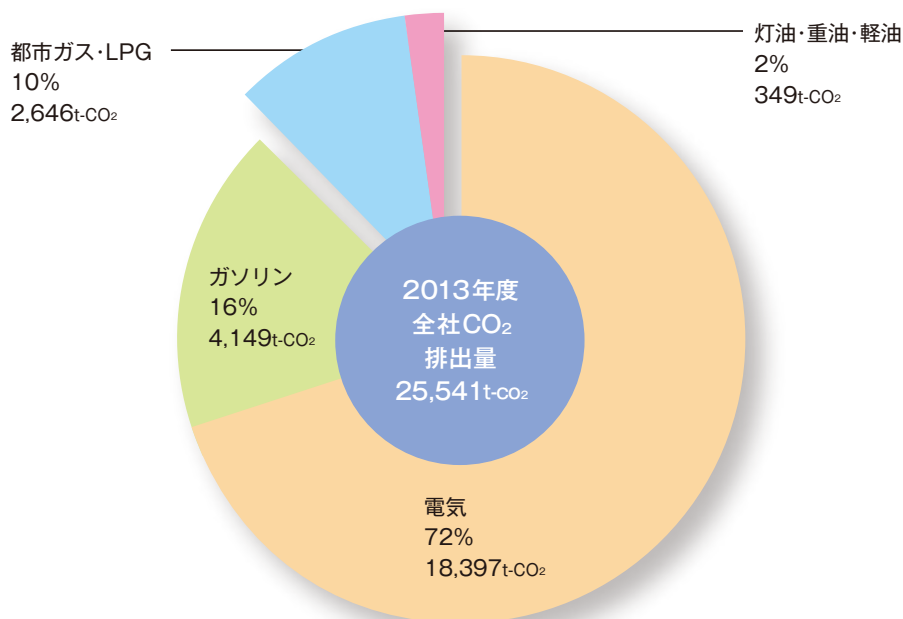
全社への情報展開・共有化のため、社内ネット上に「環境掲示板」を開設しています。2014年度は、各部署の「目的・目標」のほかに、公益財団法人主催の「エコドライブ活動コンクール」情報・「エコドライブマニュアル」を掲示し、情報の共有化に活用しました。

エネルギー使用量の削減

2014年度のEMS活動の開始にあたり、2013年度の全社エネルギー使用量を、CO₂排出量に換算して使用状況を調査しました。内訳として、CO₂排出量の88%が電気・ガソリン使用（社有車）によるものであり、CO₂排出量の削減のため2014年度も引き続き、エネルギー使用量の削減を環境負荷軽減の課題として取り組みました。

① 電気使用量の削減【全社共通目標】(p7)

② 車両燃費の向上【営業共通目標】(p8)



2014 年度 環境への取り組み

① 電気使用量の削減 【全社共通目標】

電気使用量の削減は、「電気使用量（原単位）前年度比 1%削減」を目標として取り組んできました。2013 年度の電気使用量は、原単位で前年度比 0.1%の削減となり、1%削減の目標は未達成でしたが、2014 年度は、これまでの設備投資の削減効果と各部署による運用対策を引き続き実施しました。2014 年度の電気使用量の結果は、原単位で前年度比 3.4%の削減となり目標を達成いたしました。

<2014 年度の対策>

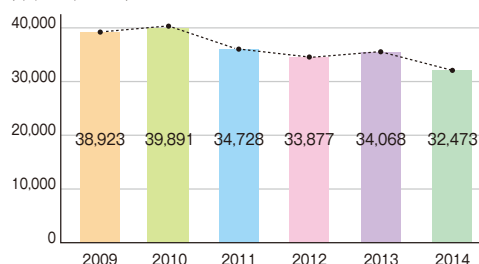
対 策	アイテム	実施内容
運用対策	OA 機器の節電	OA 機器のモニター電源オフの実施【継続】
	空調の運用	空調設定温度の徹底【継続】 夏期：従来設定温度より 2℃アップ、冬期：2℃マイナス
	照明の節電	照明の間引き、昼休み・無人スペースの消灯【継続】
	その他	クールビズの早期開始（5 月～10 月）【継続】 ウォームビズの導入（11 月～翌年 3 月）【継続】
設備対策	照明の改善	外灯の LED 化：八王子ラボラトリー 高効率化：北海道ラボラトリー、愛知ラボラトリー

項 目	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
原単位	0.02805	0.02839	0.02453	0.02338	0.02336	0.02256
対前年比	—	1.2% 増	13.6% 減	4.7% 減	0.1% 減	3.4% 減
評 価	—	未達成	達 成	達 成	未達成	達 成

原単位：電気使用量原油換算値／報告テスト数

<電気使用量の年間比較>

(単位：千 kWh)



(単位：千 kWh)

項 目	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
電気使用量	38,923	39,891	34,728	33,877	34,068	32,473

② 車両燃費の向上 【営業共通目標】

車両燃費の向上は、「前年度比 1%向上」を目標として取り組んできました。2014 年度は、公益財団法人主催の「エコドライブ活動コンクール」に参加し「優良賞」を受賞しました。2014 年度は、2013 年度の施策の継続に加え、全拠点へ新たに「エコドライブポスター」を配布し、啓蒙活動にも努めました。エコカーについては、入れ替え対象車の 99%を入れ替えることができたため 2013 年度の導入効果も含めて 2014 年度も前年度比 4%台の燃費向上ができました。なお、導入されたエコカーの 95% には衝突回避システムが搭載され、自動車事故の防止に役立っています。

<2014 年度の対策>

対 策	アイテム	詳細
運用対策	エコドライブ活動コンクールへの参加・啓蒙活動	エコドライブ活動コンクール参加による、エコドライブの意識づけとポスター配布による啓蒙活動
設備対策	低燃費車両への切替え	リースアップ時に、低燃費車両への優先切替え

(単位：km/L)

項 目	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
燃 費	14.0	14.1	14.0	14.5	15.1
対前年比	—	0.7%向上	0.7%低下	4%向上	4.1%向上
評 価	—	未達成	未達成	達 成	達 成

全社CO₂ 排出量

2014 年度のCO₂ 排出量は、対前年度比 4.3%の削減となりました。CO₂ 排出量の削減は、改善活動（電気使用量の削減、車両燃費の向上）によりエネルギー効率は向上しています。また電力会社の CO₂ 排出係数*の変動も関係しています。

(単位：t-CO₂)

項 目	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
CO ₂ 排出量	23,863	21,005	23,574	25,541	24,446

対前年比
4.3%減

<電力会社別 CO₂排出係数>

(単位：t-CO₂/kWh)

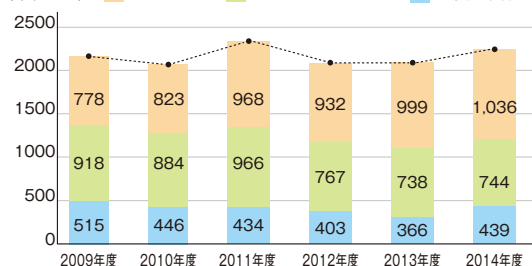
電力会社	北海道電力	東北電力	東京電力	中部電力	北陸電力	関西電力	中国電力	四国電力	九州電力	沖縄電力
2014 年度	0.000678	0.000591	0.000530	0.000513	0.000630	0.000522	0.000719	0.000699	0.000613	0.000858
2013 年度	0.000688	0.000600	0.000525	0.000516	0.000663	0.000514	0.000738	0.000700	0.000612	0.000903
2012 年度	0.000485	0.000547	0.000464	0.000518	0.000641	0.000450	0.000657	0.000552	0.000525	0.000932

*CO₂排出係数：CO₂の排出量を算出する際に用いる係数

廃棄物の削減

廃棄物の排出量は、前年度を超えないことを目標としていましたが、いくつかのラボ・事業所で、大幅なレイアウト変更があったため、2013 年度の排出量を超える結果となりました。

(単位：t) 産業廃棄物 特別管理産業廃棄物 一般廃棄物



(単位：t)

項 目	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
廃棄物量	2,153	2,368	2,102	2,103	2,219

2014 年度 環境への取り組み

行政への報告

(1) 省エネルギー法 (対象：全事業所)

① エネルギー使用状況 (原単位報告)

項 目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
原単位	0.03311	0.03340	0.02885	0.02741	0.02734	0.02602
対前年度比	—	0.9%増	13.6%減	5.0%減	0.3%減	4.8%減

原 単 位：原油換算値 / 報告テスト数
努力義務：原単位前年比1%以上削減

② 温室効果ガス排出量の状況

(単位：t-CO₂)

項 目	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
CO ₂ 排出量	20,058	19,090	16,323	19,079	21,297	20,124
対前年度比	—	4.8%減	14.5%減	16.9%増	11.6%増	5.5%減

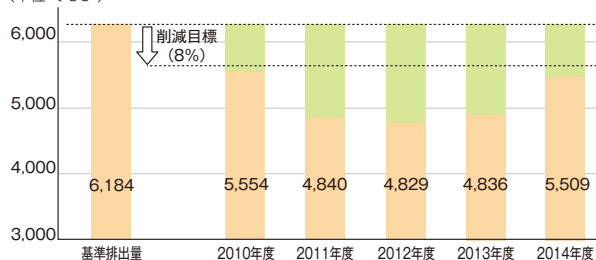
(2) 東京都地球温暖化対策 (対象：八王子ラボラトリーの一部 (第1・第2ラボ), 日野管理棟)

① 第1期計画・実績 (2010年度～2014年度)

(単位：t-CO₂)

項 目	基準排出量	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
CO ₂ 排出量	6,184	5,554	4,840	4,829	4,836	5,509
対基準排出量比	—	10.2%減	21.7%減	21.9%減	21.8%減	10.9%減

(単位：t-CO₂)



基準排出量：2005～2007年の CO₂ 排出量平均値

削減義務：CO₂ 基準排出量比 8%以上の削減
(2010～2014年の5年間平均値)

※対前年比は、小数点以下の処理の為、必ずしも一致しない場合があります。

東京都地球温暖化対策の第1期については、毎年 8%以上の削減義務を達成することができました。

② 第2期計画 (2015年度～2019年度)

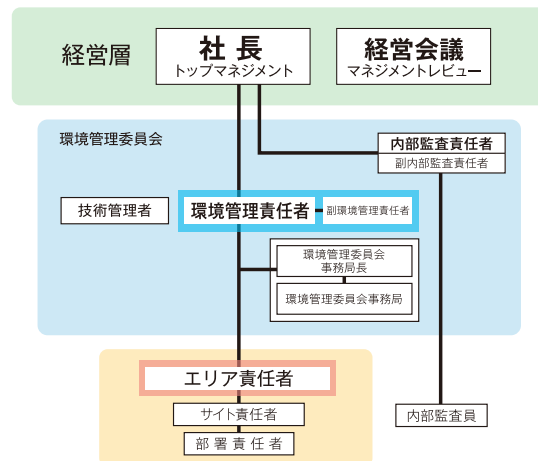
東京都地球温暖化対策 第2期計画では、基本となる基準排出量が見直され、新基準排出量の 17%削減が削減目標となります。エスアールエルは、東京都に削減目標値と実施計画を申請中です。

環境法規制・条例への対応

環境に関連する法規制・条例は、定期的に確認し、最新版としています。法遵守状況は、各エリア別に、定期的に確認し、環境管理責任者に報告しています。2014 年度の遵守状況は、すべてのエリアで良好な結果でした。

エスアールエルの EMS 組織体制

エスアールエルでは、EMS を実施するための組織体制を定めています。環境管理委員会では、定期的に EMS の運用状況の報告、環境管理責任者からの指示がなされます。マネジメントレビューは、年度の報告をもとに経営層から継続的改善の指示がされます。



ISO14001の内部監査

内部監査は、全部署への「自己点検チェック」と3年に1回の「実地監査」から成り立っています。2014年度の实地監査は、64部署(検査:47, 営業拠点:17)を実施いたしました。大きな指摘もなく、EMS活動が順調に行われていると判断されました。

ISO14001 外部審査

エスアールエルは、毎年、外部認証機関により全社 EMS の ISO14001 の適合審査を受けています。2014年度の審査は、17サイトで実施されました。(本社・検査ラボ:5, 営業拠点:10, その他:1) 審査結果は、指摘はあったものの、全体として良好な結果でした。指摘内容を今後の環境活動に生かし、改善・向上を目指してまいります。



2015 年度の活動について

2015年度の活動は、2014年度の目的・目標の実施状況、サイトの変化、エネルギー使用量も踏まえ、下記のように決定し、活動してまいります。

<EMS 活動予定>

目 的	目 標	対 策
エネルギー効率の向上	電気使用量 1%の削減	設備対策 (高効率機器の導入)
車両燃費の向上	車両燃費 1%の向上	設備対策 (低燃費車両への入れ替え)

<その他の EMS 活動予定>

項 目	内 容
環境教育	基礎環境教育、フロン排出抑制法、サプライチェーン (Scope3)
行政への報告 (法令遵守)	省エネルギー法、東京都地球温暖化対策の報告

エスアールエルのちょこっとエコ

エスアールエルのエコを紹介する「ちょこっとエコ」、今回は、有志による環境活動を紹介します。2006 年より、八王子ラボエリアにある遺伝子・染色体解析センターの有志が中心となり、毎年6月第一日曜日に、エスアールエル周辺を流れる多摩川、谷地川、日野用水路の水質検査を10年間実施しています。これは、「全国水環境マップ実行委員会」主催のボランティア活動で、登録した団体が全国一斉に河川の水質検査等(COD※、周辺状況報告)を実施するものです。この活動は、「何か社外へも環境保全活動として貢献したい」として、自主的に始めたものです。企業での登録は珍しいため、「日野市の広報誌」に掲載されたり、社内では「善行表彰」もされています。活動には家族で参加される方もおり、環境活動が今後も楽しいイベントとして継続していければと思います。



<多摩川下水流入口での測定>

※ COD (化学的酸素要求量)・・・水に含まれる汚れを薬品の酸素によって分解した物を数値です

お隣企業のエコだけの話

このコラムでは、エスアールエルと関連のある企業のエコな話を紹介しています。

今回は、エスアールエルの関東周辺の事業所から出る産業廃棄物の収集・運搬・処分を行っていただいている株式会社ナリコーです。株式会社ナリコーは、千葉県成田市に大型の廃棄物処理施設ナリコークリーンセンターを構え、平成12年にはISO14001を取得しています。ナリコークリーンセンターでは、成田空港開港以来、空港関連施設の廃棄物を収集・運搬から焼却に至る処理を一貫して行っています。また、事業の遂行にあたり、基本理念に「地球環境の保全が最重要課題」と捉え「環境の保全に配慮した積極的な活動」を推進していくことを明記しており、収集・運搬時における安全運転及びエコドライブへの取り組みや廃棄物発電設備設置によるエネルギーのリサイクルなど、さまざまな環境負荷低減活動を実施しています。環境負荷低減活動の実施においては、法規制をクリアするだけでなく、法規制を上回る厳しい社内基準を設け、地域の人々や周辺環境へ万全の配慮を期しています。また、外部コミュニケーションを大切にし、ホームページによる情報公開や工場見学だけでなく、社内誌「N a r i H O」(ナリホー)には地元の各種イベントや特産品等も含めた幅広い情報発信をしています。



ISO 14001 認証事業所 MAP

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	福岡ラボラトリー
	2	福岡西ラボラトリー
	3	北九州ラボラトリー
	4	長崎ラボラトリー
	5	佐世保ラボラトリー
	6	熊本ラボラトリー
	7	大分ラボラトリー
	8	宮崎ラボラトリー
	9	出水ラボラトリー
営業拠点	1	福岡
	2	福岡西
	3	北九州
	4	長崎
	5	佐世保
	6	熊本
	7	大分
	8	宮崎
	9	出水
	10	延岡
	11	久留米
	12	佐賀
	13	天草
	14	鹿児島
	15	沖縄

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	北海道ラボラトリー
	2	札幌ステーションラボラトリー
営業拠点	1	札幌
	3	旭川
	4	釧路
	5	函館
	6	青森
	7	盛岡
	8	秋田
	9	仙台
	10	山形
	11	福島

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	金沢ラボラトリー
	2	静岡ラボラトリー
	3	愛知ラボラトリー
営業拠点	1	金沢
	2	静岡
	3	小牧
	4	沼津
	5	名古屋
	6	岡崎
	7	岐阜
	8	津
	9	浜松
	10	富山

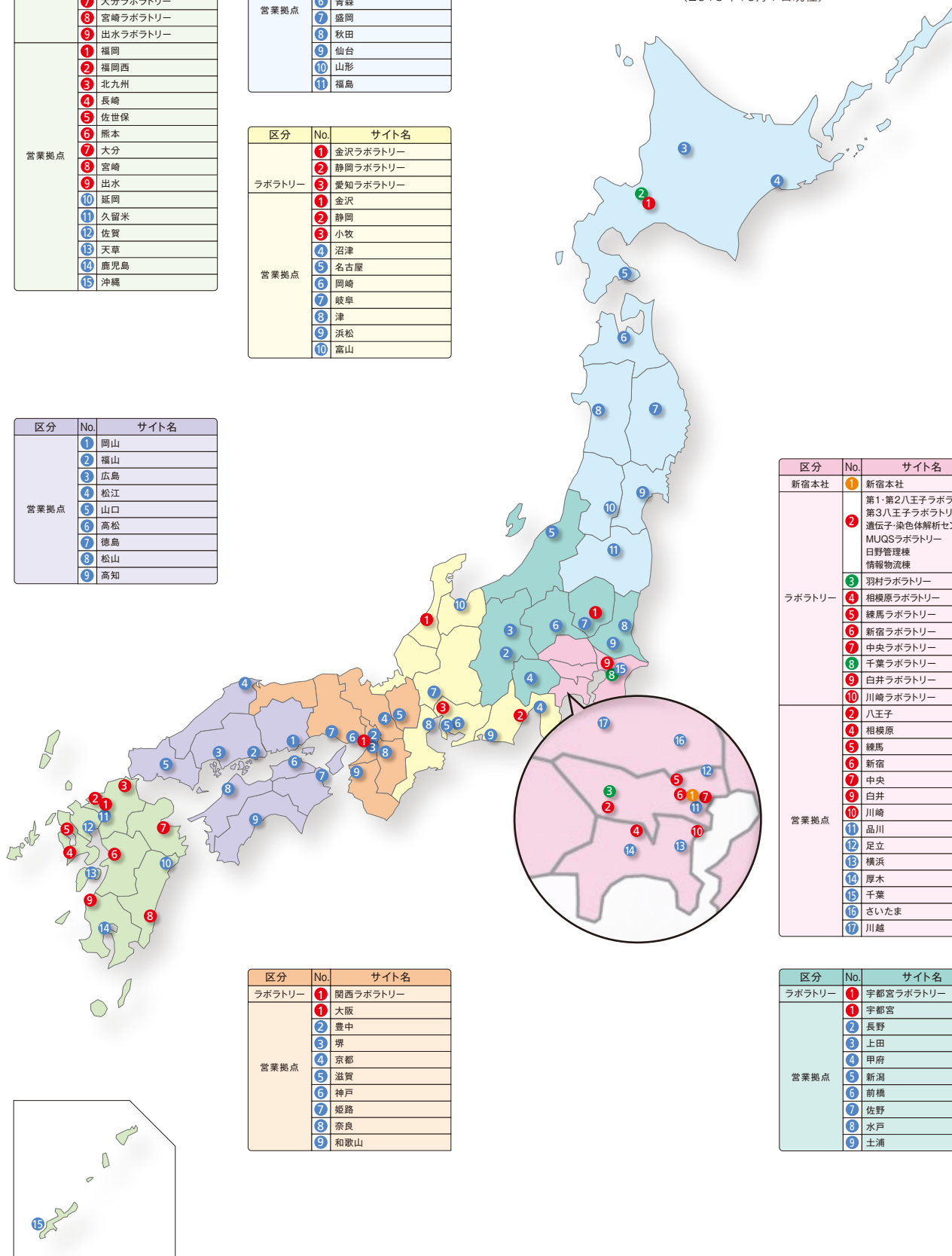
区分	No.	サイト名
営業拠点	1	岡山
	2	福山
	3	広島
	4	松江
	5	山口
	6	高松
	7	徳島
	8	松山
	9	高知

区分	No.	サイト名
新宿本社	1	新宿本社
ラボラトリー	2	第1・第2八王子ラボラトリー 第3八王子ラボラトリー 遺伝子・染色体解析センター MUQSラボラトリー 白野管理棟 情報物流棟
	3	羽村ラボラトリー
	4	相模原ラボラトリー
	5	練馬ラボラトリー
	6	新宿ラボラトリー
	7	中央ラボラトリー
	8	千葉ラボラトリー
	9	白井ラボラトリー
	10	川崎ラボラトリー
営業拠点	2	八王子
	4	相模原
	5	練馬
	6	新宿
	7	中央
	9	白井
	10	川崎
	11	品川
	12	足立
	13	横浜
	14	厚木
	15	千葉
	16	さいたま
	17	川越

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	関西ラボラトリー
	1	大阪
営業拠点	2	豊中
	3	堺
	4	京都
	5	滋賀
	6	神戸
	7	姫路
	8	奈良
	9	和歌山

区分	No.	サイト名
ラボラトリー	1	宇都宮ラボラトリー
	1	宇都宮
営業拠点	2	長野
	3	上田
	4	甲府
	5	新潟
	6	前橋
	7	佐野
	8	水戸
	9	土浦

- 本社
 - ラボラトリー&営業拠点
 - ラボラトリー
 - 営業拠点
- (2015年10月1日現在)



編集後記

「環境報告書 2015」は、2011年の発行から早いもので5回目を迎えることができました。2010年から環境マネジメントシステム（以下EMS）を全社に導入し、2013年度に全社として1回目の「更新審査」も終了してEMS活動内容の質・量の厚みが増し、活動の成果に手ごたえを感じられるものとなりました。2011年には、東日本大震災（原発停止）による電力不足が問題となり、その後も異常気象によるゲリラ豪雨や火山噴火などの自然災害が多発しております。地球全体としても地球温暖化やCO₂問題が大きくなっている中、環境にも真剣に向き合わなければなりません。エスアールエルとして、あらためて何ができるのか、何をしなければならないのかを再考し、企業活動だけにとどまらず、日常生活でもとどまることなく活動していくことが求められています。このような環境の中、エスアールエルでは「環境報告書」を発行し、広く社会の皆さまに環境活動の継続的実行を表明するとともに、環境活動をさらに推進していく所存です。本報告書により、皆さまに弊社の取り組みが少しでもご理解いただけることを願っております。

環境管理責任者 楠木 明仁

発行者：株式会社エスアールエル 総務部
本社住所：〒163-0409 東京都新宿区西新宿二丁目1番1号
発行年月：2015年11月
ホームページ：<http://www.srl-group.co.jp/>
お問い合わせ先：TEL 03-6279-0900（大代表） FAX 03-6279-0971



SIRIL 株式会社 エスアールエル
Communication for Health

